

シンポジウム

はこだて海洋教育推進会議

～次の世代へわたすはこだての海～

日時:2024年3月23日 11:00～12:30

場所:金森ホール(函館市末広町14-12)

主催: 一般社団法人 Blue Commons Japan

共催: 日本財団 海と日本プロジェクト

後援: 函館市、函館市教育委員会、北斗市

北海道大学水産学部

一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構





日本財団『海と日本プロジェクト』

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

はこだて^{うみ}海^{きょうしつ}の教室

～ 海と日本PROJECT ～



『はこだて海の教室』

はこだてエリアを「地方における実践型の海洋教育のモデル拠点」とすることを目的に、2019年、市民有志で始動。海洋の恩恵や課題を学ぶイベント・ワークショップや、「函館朝市ミニ水族館」の運営等を通じて、人と海の未来を考えるきっかけを提供します。



『一般社団法人 Blue Commons Japan』

海の問題解決に向けたアクションの輪を広げることを目的として、食文化を切り口にした海洋教育を中心に、海と人とのかかわりについて学び、海洋がもたらす恩恵や未来、さらに海洋の課題について理解を深めるために様々な事業を行います。

プログラム

1. 事例発表①「はこだて海の教室」

函館朝市ミニ水族館、海釣り自然塾、子ども海そうアカデミーなど、地域の特色を生かした講座について

企画運営担当者 吉田 沙織

2. はこだてエリアの中高生による「海の授業」

はこだて海の教室の講座「海のコミュニケーターになろう」に参加した中高生が自ら海に潜って撮った海中映像・写真を使い、海の魅力や特徴をプレゼン

「海のコミュニケーターになろう」参加生徒

3. 事例発表②「食を通じた海洋教育」

北海道ブリリアントアクション、はこだてみなと大学などの取り組みについて

一般社団法人Blue Commons Japan代表理事 國分 晋吾

4. 講演

助成制度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の説明、および同プログラムを活用した全国の好事例について

公益財団法人笹川平和財団 海洋政策研究所 嵩倉 美帆 氏

事例発表① 「はこだて海の教室」

はこだて海の教室とは

函館は三方を海に囲まれていながら、海と親しむ施設がほぼない



地元企業や市議会議員などの有志によって2019年スタート

活動目的

北海道函館市が「地方における実践型の海洋教育のモデル拠点」となり、日本国内の子ども向け海洋教育の発展を牽引すること

地域のさまざまなプレーヤーとの協働

函館朝市、北海道大学水産学部、海藻活用研究会、デザイナー、プロ水中カメラマン、釣りコンビ、鮮魚店、漁師 など



これまでの活動事例



函館朝市ミニ水族館

目的

函館朝市を海の学び・魅力発信拠点に

実施内容

- ・大型水槽4基で近海の魚や海藻の展示
- ・水槽を活用した小学生向け講座
(水族館飼育員体験・お魚お絵かき教室)

関係者の声

函館朝市協同組合連合会
理事長 藤田公人さん



海釣り自然塾

目的

函館ならではのレジャーに学びをプラス

実施内容

釣り体験+海の学び講座
(親子向け、児童教育関係者向け)

参加者の声

高丘幼稚園 学童保育スピリッツ
チーフ 勝又 武之さん

講師の声

(一社) ローカルレポリューション
代表理事 岡本啓吾さん



はこだてOceans

目的

仲間と協働して海を学び、体験する機会



学校を超えた部活動「はこだて海活部」

実施内容

海洋教育講座、磯の生き物探索、釣り体験

参加者の声

函館市立深堀中学校1年 岩瀬匡汰さん

講師の声

函館のおさかな先生 齊藤いゆさん



子ども海そうアカデミー

目的

水産資源を通じて学び、地域への誇りと愛着を養う

実施内容

磯での海藻観察、道南産青のりを使ったレシピ開発、昆布ポスター作成

参加者の声

函館市立港小学校5年 石井梨花さん

関係者の声

ブルーム・エー 代表 岡田暁さん
海藻活用研究会 事務局長 布村重樹さん



企画運営担当者 吉田 沙織

海のコミュニケーターになろう

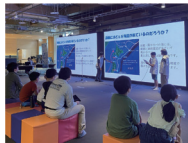


目的

海のリアルを見て、
自らの創意工夫で発信する

実施内容

専門家による海洋教育講座、海中撮影、
映像制作、小学生への「海の授業」



参加者の声

函館遺愛高等学校2年 齊藤優里さん

関係者の声

プロ水中カメラマン 佐藤長明さん

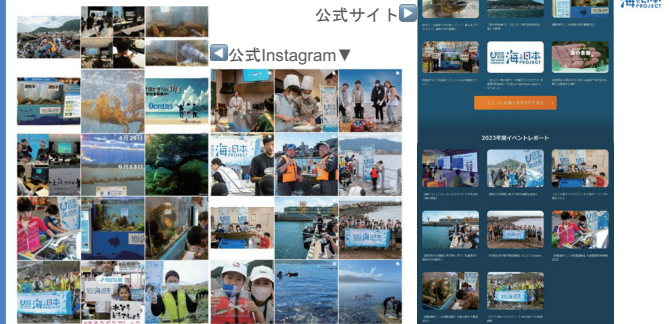
告知チラシを函館エリアの全学校や関係先に配布



メディアへのリリースをイベント毎に配信 →新聞やテレビなどを通じた情報拡散を目指す



SNSやWEBサイトで発信



メディア露出（2023年度）



WEBメディア **400**件以上

12,000超ページビュー

テレビ放送**3**回、新聞掲載**10**回



場づくり、機会づくりに加え、情報発信で
子どもや大人の「海への興味関心」をアップ！

事例発表② 「食を通じた海洋教育」

はこだて
ブリリアント
アクション

近年爆増した「ブリ」を
新たな北海道の資源とすることで
地域を盛り上げ
豊かな海の食文化を未来に引き継いでいきたい！

はこだて
ブリリアント
アクション

1. 道内管内でのブリの消費推移 (平均1日あたり)

年	消費量 (kg)
2015	1,000,000
2016	1,200,000
2017	1,500,000
2018	1,800,000
2019	2,200,000
2020	2,500,000
2021	2,800,000
2022	3,200,000
2. 産地別ブリとスルメイカの消費推移

産地	消費量 (kg)
道内産	1,500,000
道外産	1,300,000
3. 都道府県別ブリ消費量 (天然、R2産)

都道府県	消費量 (kg)	割合 (%)
北海道	15,544	15%
青森県	43,717	42%
岩手県	12,287	12%
宮城県	10,779	10%
秋田県	5,177	5%
山形県	6,382	6%
福島県	6,424	6%
4. 道内販売用ブリの消費量 (R2産)

道内	消費量 (kg)	割合 (%)
道内	486	7%
道外	778	5%
道内	1,131	7%
道外	13,216	72%

はこだて
ブリリアント
アクション

パサパサする

どうやえ料理したらいいのかしら？

食べ方がわからない

函館のブリは
痩せていて
脂が少ない
富山6kg〜ブリ
函館3kg〜ブリ

馴染み(食文化)がないので、なかなか広まらない
～北海道ブリの消費量は全国平均の半分程度～

はこだて
ブリリアント
アクション

ムーブメント

子供がよろこぶブリメニュー開発

はこだて
ブリリアント
アクション

ムーブメント

学校給食で大好評！

海洋環境変化を伝える事前授業+校内放送で背景を伝える

はこだて
ブリリアント
アクション

ムーブメント

1年目は20店舗と連携
2年目・3年目は60店舗と連携
4年目は北海道内188店舗と連携

飲食店やスーパー(コープさっぽろ様)と連携
4年目には道内188店舗に

(一社)Blue Commons Japan代表理事 國分晋吾

はこだて
ブリリアント
アクション

ムーブメント



①牛乳や水イでブリをつける
▶15分
②昆布エキスで和える(コク)
③パン粉に付けて揚げる
④オリジナル「タレ」をつけて完成

函館ブリたれカツ誕生！！

はこだて
ブリリアント
アクション

商品開発



コロナ禍により多くの方に食べてもらうために
函館ブリたれカツバーガー

はこだて
ブリリアント
アクション

商品開発



北海道産小麦「きたほなみ」を使用した特注の種
小樽の和弘食品とブリ漁船出汁からラーメンスープ開発
ジョウゴヤマ子社長さんが講師さんと連携して丁寧に焙煎したブリを冷凍加工
おいしい道南ブリが毎年出荷
レアブリチャーシュー
密着の塩ラーメンを種「よじさい」が監修

ALL北海道の総力を結集して開発した

はこだて
ブリリアント
アクション

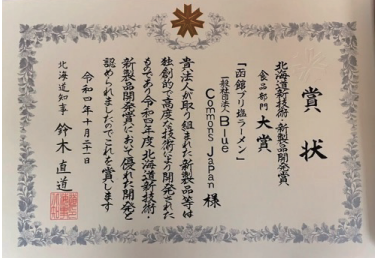
商品開発



パッケージで背景を伝える「海洋環境変化」
函館ブリ塩ラーメン

はこだて
ブリリアント
アクション

商品開発



賞状
「令和4年度北海道新技術・新製品開発賞」大賞を受賞
貴法人が取り組まれた新製品等、技術的・高度技術と開発されたもの、令和4年度北海道新技術・新製品開発賞に選出され、誠にありがとうございます。令和4年10月1日、北海道知事 鈴木直道

商品開発の取り組みが評価されて
『令和4年度北海道新技術・新製品開発賞』大賞を受

はこだて
みなと大学
サカナ学部

体験



みなとに集い、みんなが繋がり、みらいを創る。
知って食べれば、海はもっと美味しい
海と食のつながりを楽しむ学部

はこだて^{うみ}海の^{きょう}教室^{しつ}

～ 海と日本PROJECT ～

はこだて海洋教育推進会議

